



京都大学応用哲学・倫理学教育研究センター（CAPE）研究プロジェクト「人と動物の倫理研究会」の第5回研究会を下記要領で開催いたします（参加費無料、事前登録不要）。皆様のご参加をお待ちしております。

<人と動物の倫理研究会 第5回研究会のご案内>

日時： 2017年10月28日（土）13時～16時

場所： 京都大学文学部 第6講義室（文学部校舎2階）

<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/about/access/>

内容：

講演「畜産で今最もホットな話題—家畜の福祉—」（1時間）

帝京科学大学アニマルサイエンス学科教授 佐藤 衆介

研究発表「『動物福祉』概念の哲学的再検討」（1時間）

京都大学文学研究科准教授 伊勢田 哲治

※ 講演および研究発表の後、それぞれ質疑応答・ディスカッションの時間（各30分）を設定しております。

<発起人>

京都大学文学研究科准教授 伊勢田 哲治

京都大学文学研究科准教授 児玉 聡

長野工業高等専門学校一般科准教授 鬼頭 葉子

<連絡先>

e-mail: [y\\_kito@nagano-nct.ac.jp](mailto:y_kito@nagano-nct.ac.jp)（鬼頭）



## <講師略歴と講演概要>

講師： 帝京科学大学アニマルサイエンス学科教授 佐藤 衆介 先生

ご略歴：

1949年宮城県生まれ。1973年東北大学農学部卒業。1978年東北大学大学院農学研究科博士課程修了（農学博士）。宮崎大学農学部助手、同助教授、大学院農学研究科助教授、独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構畜産草地研究所放牧管理部長、東北大学大学院農学研究科教授を経て、2015年より現職ならびに東北大学名誉教授。

応用動物行動学会会長、仙台市動物愛護協議会会長、財団法人日本動物愛護協会学術顧問等を歴任。

専門は応用動物行動学。現在の研究領域は、産業動物の福祉に関する研究、ヒトとかかわる動物の行動に関する研究、放牧に関する研究など。

著書：

『動物福祉の科学』緑書房（共監訳、2017年）、『動物行動図説』朝倉書店（共編著、2011年）、『アニマルウェルフェア—動物の幸せについての科学と倫理』東京大学出版会（単著、2005年）ほか。

講演概要： 以下の4つの話題を紹介する。

- ① 家畜福祉をめぐる国内情勢：東京オリンピック・パラリンピック 2020での畜産物調達基準の1つに「アニマルウェルフェア（家畜福祉）」が入ったこと、および日欧EPAにおいて非貿易的関心事項として家畜福祉が入ったことで、生産者団体と行政は対応に追われている状況を紹介する。
- ② 家畜の福祉をめぐる国際情勢：欧州連合（EU）は条約の中に家畜福祉の順守を入れることで、政策的に家畜の福祉向上を推進してきている。その流れはEU各国の旧植民地、EUへ畜産物を輸出する国に急激に波及してきている。そのような状況を受け、国際獣疫事務局(OIE)は家畜福祉向上のためのグローバルスタンダードを作成し、それを最低基準とするISO認証システムを成立させた。このような国際情勢を紹介する。
- ③ 家畜福祉倫理の科学的翻訳：1964年「アニマル・マシーン」により家畜の福祉向上が提唱され、それ以降自然科学による翻訳作業が延々と行われてきている。科学的翻訳の現状を紹介する。
- ④ 正常行動発現の自由：これは福祉向上の主たる柱である。正常行動とは何かを解説する。